

平成30年度 学校評価報告書【国立市国立第一中学校】

<p>学校教育目標</p>	<p>「たくましい、心豊かな人間をめざして」次の目標を設定する。 1. 自ら学び、考え、自主的な行動をしよう。 2. 豊かな創造性を養おう。 3. 思いやる心をもとう。 4. 健康な心身をつくろう。</p>	<p>重点目標</p>	<p>共生社会実現に向けた「共学」「共感」「共有」による学舎の創造 ～チーム国中～ 1 確かな学力の向上 共に学ぶ「共学」 2 心の教育の充実 自他を大切に「共感」 3 特別活動の充実 共に育つ「共有」</p>
---------------	---	-------------	---

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価		
					中間評価	最終評価					
確かな学力の向上	③②① 「一」 「交」主基礎 「流」体的 「的」な 「共」学知 「同」識 「学」の技 「習」の「能」 「の」点 「推」進に 「立」ち得 「支」援す 「援」する 「実」践	生 教 員 全 体 で 授 業 共 実 同 学 習 に 関 し て の 理 解 を 深 め 、 教 科 特 性 を	① 学習から活用する活動をつくる（増やす）。 （1）学習内容をアウトプットとする機会をもつ。 具体的には、小テストや演習の時間をもつ。 （2）学習内容を説明する機会をもつ。 具体的には、グループでの検討、全体共有の時間をもつ。 （3）学習内容を深化する機会をもつ。 具体的には、問題の応用や発表の時間をもつ。 ……共同学習を進める中で、学習内容について、多面的多角的な視点で追求することで、基礎的な知識技能の浸透を目指していく。	生徒の授業評価アンケート「授業内容は理解できた」「授業内容が分かりやすい」の「そう思う」の割合を80%以上にする。 ・授業アンケートの意味をもたせるために平成30年度は中央値と平均値をとり、教務部で分析を行うことで全教員の授業力向上を目指していく	A	A	授業内容の理解についての項目は、2学期の結果が1学期と比較して、僅かに低下していた。原因としては、学習内容の高度化が考えられるため、授業内容が高度になるにつれて、支援や工夫を増やしていく必要がある。 また、学年で見ると1学年および2学年のアンケート結果が低下している。 「授業内容は理解できた」と言う項目と比較して「授業内容が分かりやすい」という項目においては、教員間の差が大きく、指導力のボトムアップが必要であると感じている。	授業内容が分かりやすいと理解度が高まり、理解度が高まると、授業への参加度も高まる関係性があることから、授業内容を分かりやすくするための工夫・支援の手立てを考えていく必要がある。 【改善策①】 授業のユニバーサルデザイン化を年度当初の校内研修で行い、全ての先生へ授業の工夫を促す。 【改善策②】 支援員やTAなどの活用、放課後学習支援教室などの活用を行うことで、授業内での支援や授業後の支援を充実させることで、学習への抵抗や不安を少なくしていくことが効果的であると考えられる。	新しく着任される先生方に、どのように国立一中の研究内容や授業力向上の取り組みを浸透させていくことが課題。 ねらいの明示などは全教員がしっかりと行い、教員間の授業力の格差が良い方向に少なくなっていくことを期待しています。		
			② 質の高い課題設定をする（課題の工夫） （1）生徒から表出する課題の尊重。 （2）追究したいと思える興味深い課題の工夫。 （3）生活の実態で活用できる課題の設定。 ……主体的な学びを促す工夫を多く取り入れていく。	生徒の授業評価アンケート「意欲的に自らすすんで取り組める授業である」の「そう思う」の割合を70%以上にする。	A	A	「意欲的に自ら進んで取り組める授業である」という項目については、1学期と比較して僅かに低下した。一方で、どの学年においても80%以上の水準を保っている。 授業内容の理解度とも関連性が強く、理解度が低下することで授業への参加度も下がることが予想される。	意欲的に自ら進んで取り組める授業のために、ねらいの明確化や授業内容の工夫に取り組む必要がある。 【改善策】 学習環境を整えることで、授業への積極的な参加を促すとともに、教員間での相互の学び合いや情報共有を図っていく。			
			③ 授業内容・授業形態を工夫する。 （1）他者との関わりをもつことで、課題解決を図ることのできる授業内容を検討していく。 （2）授業内容と授業形態との結びつきを意識し、学習効果の高い授業を展開することで、授業への意欲を高める。 ……校内研修を通して、教科の垣根を越えた授業研究を行う。	生徒の授業評価アンケート「自分の意見を理解してもらえようように伝えることができた」「自分以外の意見や考えに触れる（知る）授業である」の「そう思う」の割合を75%以上にする。 研究部でも、生徒アンケートを実施し、生徒の変容をとらえる。	B	B	この項目においては、3学年の数値が最もよく、80%以上の数値であった。昨年度からの校内研究の成果もあり、学年が進行するとともに、共同学習を積極的に取り入れ、実践することができていると見て取れる。	校内研修の成果を来年度に引き継ぎ、共同学習が様々な場面でいわれる環境作りをしていく。 【改善策】 教科指導に限らず、総合的な学習の時間や特別活動などにおいても、他者と関わり合い、交流できる機会を増やしていくことで、より共同学習の効果を高める。			
心の教育の充実	い じ め の な い 学 校 づ く り	他 い 者 の 理 解 を 生 ま な い た め の	「共感する心」「温かい心」を育てる活動を行う。 ふれあい月間（6月、11月、2月）で「いじめに関するアンケート」を実施する。 スクールパディの活動として、週2回パディルームを開放して生徒同士が触れ合いながら、相談に乗る活動をする。また、ポスターや便りを発行して全校に呼びかける。 道徳で「友だちの良いところ」を見つけ、お互いの長所に気づかせる授業を行い、他者理解する心を育てる。	すべての教育活動をとらえて「共感する心」「温かい心」を育てるように生徒と接する。 いじめに関するアンケートで、「いじめを受けていると感じたことがある」と回答する生徒を1%未満にする。 月一回スクールパディの便りを発行する。 他者を理解していくような道徳を行い、ワークシートで生徒が他者理解をする心がもてたかを見て取る。	B	B	年間を通して「いじめを受けていると感じたことがある」という生徒が1%未満にすることはできなかった。 また、スクールパディの活動として、今年度は、テスト期間に、勉強を教え合うという活動にも取り組んだことは、良かったがあまり積極的な活用はみられなかった。 道徳などで他者を理解する心を育てる活動は行ったが、「いじめを受けたと感じたことがある」生徒の多くは、軽い気持ちからのからかいが原因だったことを考えるとまだまだ課題が多い。	【改善策①】校内研修で「温かい心を育てる環境づくり」の取り組みを教員に周知する。教員が生徒のよいところを見つけ、必ず前向きな言葉がけをしていくために、一日一回は、クラスの生徒と話し自専心を高める。 【改善策②】スクールパディの活用 スクールパディの活動をより頻繁に行う。また、便りを発行して活動を周知して、定期的な活動の企画を考える。 【改善策③】いじめ対策委員会における情報交換をもとに、効果的な対応を考える組織的な取り組みを行う。また、「他者理解・いじめ」をテーマに道徳の授業を行い、教員と生徒双方の意識を高める。	いじめに対する取り組みは、よくできていると思う、いじめアンケートにおけるいじめの認知件数を0%にすることは難しいが、継続して、いじめを受けていると感じている生徒への対応やいじめを見逃さない雰囲気作りや生徒への心の指導に力を入れていってほしい。 また、いじめを見逃さない厳格な雰囲気も必要だが、おおらかに過ごせる温かい雰囲気作りも必要、何事もバランス良く取り組むことが大切です。 SNSルールに関しては、継続して議論していく必要がある。携帯電話の持ち込みなど、時代の流れに合わせて、評議委員会でも話しを挙げていきたい。		
			情報モラル教育の推進	S N S 一 中 ル ール 見 直 し	セイフティ教室でSNSの使い方に関する講演を行い、情報モラル教育をする。 7月にSNSの使い方に関するアンケート実施し使用状況を把握する。 2学期にアンケートの意見・結果に基づいてSNSルールを検討する。 3学期にSNS東京ノートを使用し、相手の気持ちを考えたコミュニケーションを学習する。	セイフティ教室のアンケートで「SNSトラブルを減らす使い方を理解した。」と回答する生徒を全体の90%以上にする。 SNSアンケートで、「相手のことを考えてSNSを使っている」と回答した生徒をSNSを使用している生徒の95%、「SNSトラブルで困っている」と回答した生徒を全体の5%以下にする。	B	B	セイフティ教室後のアンケートで「SNSトラブルを減らす使い方を理解した。」と回答した生徒が約95%いた。またSNSトラブルで困ったことがあると回答している生徒は各学年半数程度いる。 委員会でのルール検討が出来なかった。	【改善策①】SNSルールの周知および検討 一中ホームページでSNSルールの周知を行い、家庭と協力してSNSのトラブルを減らしていく。 また、生徒会や生徒の委員会を活用して現在のルール内容を検討することで、SNSルールへの意識を高める。	
			ボランティア活動の推進	化 ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 活 性	教職員 校内美化活動（桜の掃除、秋の落ち葉掃除等）を企画し、生徒に自主的な活動を促す。 ボランティア体験の年間計画を立て、定期的に活動についての啓発方法を考える。 ボランティアカードを作成・配布し、ボランティア参加状況の把握する。 スペシャルプランナーを組織し、中心的存在としてボランティア活動を行う。また、全校への啓発を行う。	年間を通してのボランティアへの参加率を全体の25%以上にする。 学期末アンケートで、「ボランティア活動を通して温かい心をもつことができた。」と回答する生徒を60%以上にする。	B	B	三小育成会の小学校で行われた地域交流会、花植え、桜の掃除のボランティア活動を行った。スペシャルプランナーを活用しての参加も行った。ボランティア活動への参加を呼び掛けてはいるが、参加人数が少ないこともあり、啓発方法を考える必要がある。 ボランティアの内容が不明瞭なものもあったので、何をどのように行うのか事前に打ち合わせが必要である。 「ふくのおプロジェクト」は多くの生徒が参加しとても良かった。	【改善策①】ボランティア活動の内容を再検討する スペシャルプランナーの生徒を中心にボランティアとは何かということをもう一度考え、生徒が主体的に取り組めるような内容を企画する。また、学校行事との兼ね合いもあるので、準備期間が取れるようなスケジュール的なところもしっかり計画して、関係団体との連絡を取り合い内容の濃い活動にできるとよい。 また、「ふくのはプロジェクト」のような家庭も参加しやすい企画を増やしていきたい。	
特別活動の充実	生 徒 が 主 体 と な る 学 校 行 事	学 校 行 事 の 主 体 的 な 運 営	担任の助言のもと、実行委員が練習の計画、運営をする。	行事アンケートで「クラスで協力して取り組めた」「実行委員が行事の成功に導いた」の回答をした生徒を全体の95%以上にする。	B	B	各行事でも実行委員を中心によくできていた。また学年ごとの行事でも生徒を中心としてよく活動できていた。	【改善策①】3年生主体で行事に取り組む 実行委員会の活動をより活発にして、もっと3年生が主体的に活動できるようにしていく。	行事に関しては、学校評価アンケートでも高い数値があるように、生徒を中心によく頑張っていると思います。 ただ、学校評価アンケートの回収率をもっと高めたいと思っています。		
			宿泊行事・校外学習などにおいて、生徒同士で、ルールとその意味などについて必要なことを考え、生徒主体の行事を実施する。生徒一人ひとりが係活動を分担し、活動に責任をもつ。	行事アンケートで「自分の担当の活動を責任もって行えた」「充実した行事になった」の回答をした生徒を全体の95%以上にする。	B	B	一年生の校外学習（昭和記念公園）、二年生の校外学習（横浜）、三年生の修学旅行とどの学年も実行委員を中心として取り組み、生徒一人一人が活動に責任をもって取り組めた。	【改善策①】ルールとその意味について事前により深く考える。 各学年ともにルールを守らない生徒がいたところから、事前の指導をする中で、なぜそのルールがあるのかということまで深く考えさせるような指導が必要である。生徒の実行委員を中心に、生徒一人一人が社会の中で責任有る行動をする意識を高める、事前の取り組みを行う。			